

BOOK GUIDE

今月のブックガイド

遊んでまなぶ性教育

「よいタッチ いやなタッチがあるんだよ」「やったね！できたね！うれしいきもち」「うんちでわかるからだのげんき」…丸くデザインされたかわいい読み札が読まれれば、机に広げられたカラフルな取り札に「はい！」と小さな手が伸びる。かるた遊びをしながら、からだやこころ、安全や関係性に関するテーマについて学べる性教育教材『ここからかるた』は、イラストもデザインも「お勉強」っぽくないので、子どもも大人も気軽に楽しめる。手にとりやすいのに、中身は大事な情報が盛りだくさん。

『ここからかるた』のオススメポイントはたくさんある。その① ユネスコ編「国際セクシュアリティ教育ガイダンス」を参考にしてつくられていること。包括的セクシュアリティ教育は、二次性徴だけを教えたり、子どもを守るという発想に立つものではなく、セクシュアリティの認知的、感情的、身体的および社会的側面についての知識、スキル、態度、価値を子ども自身が身につけるための系統的な学習である。ガイドラインでは、5歳から年齢や発達に応じた情報提供をすることが推奨されているが、「実際、どうすればいいの？」と戸惑う人も多いだろう。そこで登場したのが、このかるた（対象年齢5歳から！）である。

肯定的な価値観と人間関係に重点を置く包括的セクシュアリティ教育のアプローチの通り、『ここからかるた』では、禁止や助言ではなく、子どもに語りかけ、問いかけるようなメッセージが綴られている。健康やウェルビーイングに関する幅広い内容が含まれ、例えば、【からだ】については、性器だけでなく、骨や排泄物、入浴での清潔など、幼い子どもにも身近な情報ばかり。【こころ】のかるたでは、感情の理解や表出、同意、セクシュアリティの多様性など。そ



はじめてまなぶ こころ・からだ・性のだいじ
ここからかるた

染矢明日香著
良 香織監修
合同出版
定価 4180 円（税込）

して、プライベートパーツや安全のルール、SNS の使い方などが具体的に示されているのが【あんぜん】。さらに、さまざまな家族のありようや差別に関するトピックスは【ひととのかんけい】に含まれている。包括的セクシュアリティ教育で扱うべき内容が網羅されており、大人が学ぶのにも役に立つ。

オススメポイント② さまざまな遊び方や使い方ができる。一般的な「かるたとり」で遊ぶだけでも、性に関するポジティブなメッセージに触れられる。取り札の裏に書かれているこころやからだについての質問に答える「ここからクエスション」のワークも楽しい。付属の「あそびかたガイド」には、好きな取り札を3枚選んで紹介する「ここからトーク」、からだの部位やはたらきを学ぶ「からだガイド」の活用などが載せられている。学級や施設、もちろん家庭でも、さまざまな活用ができるだろう。私自身も、性的な傷つきや課題をかかえた子どものセラピーで使いたいと思っている。支援者・教育者の研修にも有用である。

オススメポイント③ かるたを使う大人自身の態度に気づく機会になる。「あそびかたガイド」では、すぐに答えられない子どもには、「もう少し考える時間がほしいのか、パスするのかどうかの気持ちを確認してから、次に進むようにしましょう」とある。大人はしばしば、子どもの反応を急かしたり、よかれと代弁したりしてしまう。それが境界線の侵害であることに、大人自身が気づく必要がある。相手の話に耳を傾け、同意を確認する大人の姿は、子どもにとって何より重要なモデルになる。こころやからだにまつわる話題を「だれに、どこまで話すか」といった境界線を示すのも、大人の役割であり、それこそが性教育である。

まずはぜひ、大人が体験してほしい。それから、子どもと一緒に遊んでみよう。年始の遊びにぴったりな『ここからかるた』で、性教育始め。よいお年を！

（大阪大学大学院准教授 野坂祐子）